

現在のボン教（中国語で苯教または波恩教）の最高神<sup>注</sup>は、中国語で斯巴傑姆（発音はスバジエモで宇宙の女王の意味）、ギャロン・チベット語の方言の一つでスパ・ギャルモ（ワイリー式転写字表記で“sridpai rgyalmo”、チベット語の発音はスイペ・ギャルモ、古老の女王の意味）で、ボン教のお寺の壁画や民族用品店で売られている掛け軸の形で見られます。また社会情勢の変化によってチベット仏教に改

宗した元々古い歴史を持つボン教だったお寺の金堂等にも、スパ・ギャルモの壁画が残されています。優れた絵師が何百年も昔に描き戦乱を生き抜いて継承されている迫力ある素晴らしい壁画は少なく、ボン教の古刹が多い女王谷でもお目に掛かれるのは稀です。

その一つが丹巴の約1000年の歴史を持つボン教のお寺に残っていますが、傷つけられたり破壊された

部位が多いためパソコン上で修復した画像をご紹介します(写真1)。

スパ・ギャルモは魔除けのために憤怒の形相を作り、驢馬の背に人皮を敷いて上座し、6本の腕に敵の力を削ぎ生死を御す剣（左上）や悪霊を破壊し飲み込む血を満たした頭蓋（右下）等の6種の法器を持つおどろおどろしい姿を取っています。また現代ボン教はチベット仏教の影響を受けていると言われる通り、スパ・ギャルモは仏陀の護法神ともされ、頭の上に小さな仏陀を配している（化仏）のに加え、壁画の描き方もチベット仏教の其れに似ています(写真2)。

少し話が外れますが、



写真1：スパ・ギャルモの壁画（修復画）



写真 2：チベット西部に在るグゲ王国（中国語で古格王国）ツァパラン遺跡の山頂の経堂に残る壁画。経堂は11世紀にアティエーシャ“*Atisha*”（中国語で阿底峽）が伝えたチベット仏教カダム派（中国語で西藏仏教カ達姆派、後のゲルク派）です。

古い歴史を持つボン教のお寺には、夕闇が迫る頃に土壇で火を焚いて周囲を踊りながら神々に豊穰を祈ったり供物を火に投じる護摩の修法が伝承されていて、古代ペルシャの拝火教とインドの仏教（元々はバラモン教）の両方から影響を受けていると考えられています(写真3)。



写真3：火を焚いて踊りながら神々に豊穰を祈り供物を投じる僧たち。ここは古い歴史を持つボン教寺で、チョスジャ（中国語で綽斯甲）公国領主に繋がる。

#### ■注

**ボン経の最高神**：7世紀に吐蕃王国のソンツェンガンポ（中国語で松贊干布）に滅ぼされる以前、シャンシュン王国（中国語で象雄王国）の時代に興った古代のボン教は、9世紀以後チベット仏教に同化した現在のボン教とは異なっていました。古代のボン教の最高神は「生命の女王」だったと伝えられ、前回の四姑娘山・写真日よりご紹介した「湖の女王」のような背景と性格を持っていたと考えられます。

●大川さんのホームページはこちら <http://rgyalmorong.info/index.htm>

<http://rgyalmorong.info/scholaweb/conts.htm>

▲お知らせ：女王谷のHP（<http://rgyalmorong.info/>）に、当地の風情を紹介するサンプルビデオ（MP4形式 8MB前後）1分余り×15本を追加しました。日本語HPに入って頂いて、先頭頁の左下に有る、「風情のあるビデオ」でご覧になれます。（<http://rgyalmorong.info/scholaweb/queenvideo-j.htm>）